

東アジア国際関係の新展開

～中国の台頭へのアメリカ、日本、フィリピンの対応～

2019 年 10 月 20 日(日) 14:00~16:30

新潟コンベンションセンター（朱鷺メッセ）201 会議室

■司会 細谷雄一（慶應義塾大学）

■報告 森 聡（法政大学）

「ワシントンによる対中競争路線への転換——その要因と諸相」

高木佑輔（政策研究大学院大学）

「フィリピンの対中政策の転換——小国の大戦略試論」

竹中治堅（政策研究大学院大学）

「官邸主導と自由で開かれたインド太平洋構想——国際環境変化への対応」

■討論 阿南友亮（東北大学）

細谷雄一（慶應義塾大学）

入場無料・事前登録不要

今日、経済、軍事、技術の面で中国の台頭は著しい。世界第 2 位の経済力を背景に一帶一路構想を推進し、とくにアジア諸国との経済関係の深化を図っている。防衛予算も世界第 2 位の 2147 億ドル（2015 年、世界銀行調べ）に達し、軍備の増強、南シナ海への進出を支えている。また、注目度の高い論文数（2013～2015 年の年平均）や特許出願数（2017 年）も世界第 2 位で、研究開発面での躍進も明らかである。2025 年までに世界の「製造強国」に仲間入りし、49 年までに「社会主義現代化強国」となり、大国となるという目標に向かって、中国は着実に歩みを進めているようである。

このように大国の内実を備え、大国としてふるまいつつある中国は東アジアの国際関係にいかなる影響をもたらしているのだろうか。米国、日本、フィリピンの対中政策を検討し、それらの相互作用を通じて東アジア国際関係が変容する過程を分析する。

■一般財団法人日本国際政治学会は、1956 年に設立された、国際政治、国際政治史、地域研究その他の国際的諸問題などに関する学術的研究の推進、発表および普及を図る学術団体です。

■今大会の開催にあたり、公益財団法人社会科学国際交流江草基金の助成を受けました。また、新潟県コンベンション開催費補助金、新潟市コンベンション開催補助金の補助対象事業として指定を受けました。記して感謝申し上げます。

■お問い合わせ先：大会実行委員会

武田知己 jair2019niigata@gmail.com

■アクセス：朱鷺メッセ（新潟駅徒歩 20 分／路線バス 15 分）

〒950-0078 新潟県新潟市中央区万代島 6-1